◇旗と人の渦―芝浦メーデーの賑ひ

「無産者」の集ひ！芝浦の勞働祭

雑記帳

裁判官を忌避した今朝彌弁護士の著用してゐる洋服は、今から二十年ばかり前アメリカで皿を洗つてる時分に大枚三十ドルを奮發してハリコンだもの▲木場仕立てだけあつて、地はなか〳〵立派なものだ『山崎君に過ぎたものは洋服ばかりだ』とその來歴を知らぬものはほめそやす▲正直な山崎君はだまつてゐればよいのに『もうこしらへてから二十年近くもなるがこれ一著で押し通したよ』と口走るものだから手にとつてよく見るとサスガに摺り切れてゐる、それを得意に着込んで木綿の破れ足袋に赤い鼻緒のヒヤメシ草履をはいた姿は社會主義者の御用弁護人には充分だ▲山崎君に匹敵すべき汚感黨は古島義英弁護士だ、ドス黒い顔に長い髯をモジヤ〳〵に生やしゴミの三寸位つもつたボロ〳〵のフロックコートを着込んで肩で風を切つて裁判所に現れ『そもそもわが黨の政策は……』と破半鐘のやうな聲で憲政會の太鼓をたゝく姿は何う見ても大道易者の風采だ▲この男近ごろパネ仕掛けの新式の鞭をはき込んでハイカラ風を吹かしてゐるが同僚が『變つたものをはいてゐるな』と言葉をかけると待つてましたとばかり『新人のはくものはコンなものさオホン』とくる、そのくせどこかの寄贈品だとはナール程